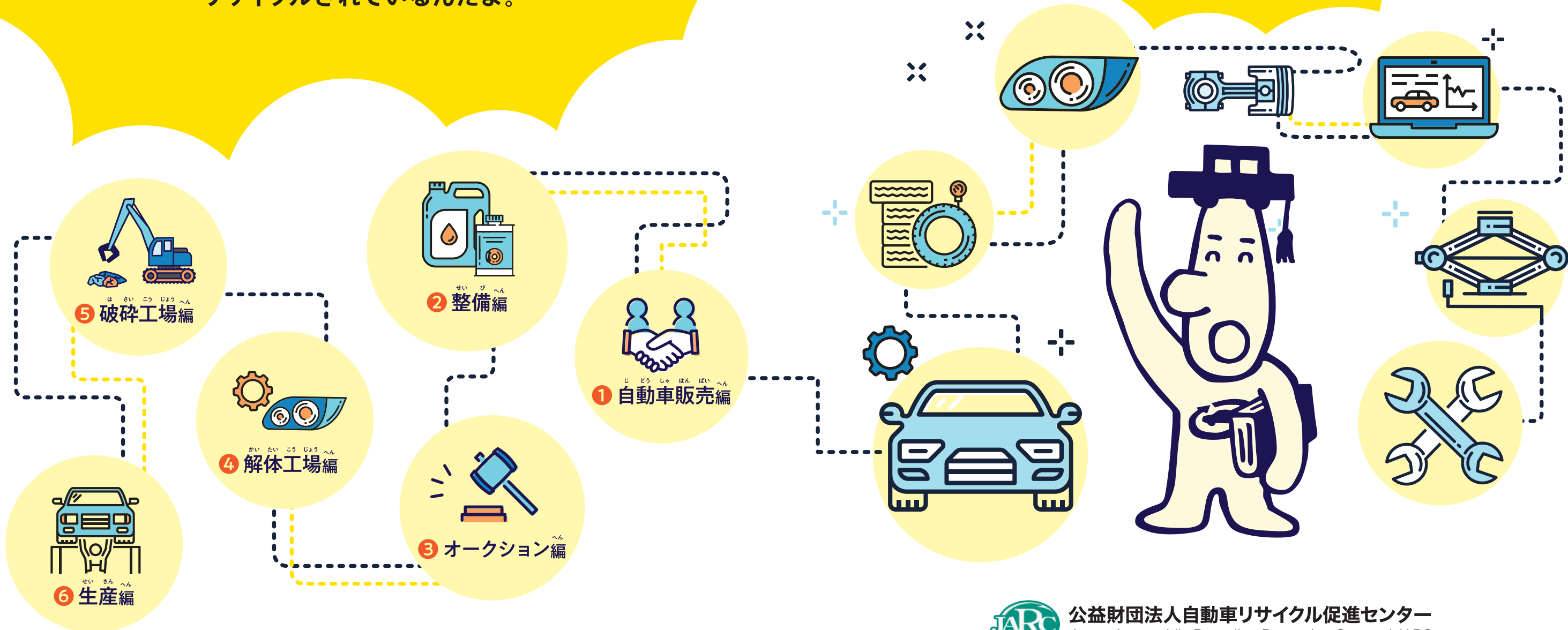


お家で工場見学!

進め! クルマのリサイクル

使い終わったクルマは どうなるの?

みんなの暮らしを支える自動車。
役目を終えた後は、
リサイクルされているんだよ。



自動車リサイクルタウンへ行ってみよう!



自動車のリサイクルについてもっと知りたくなったら、下の二次元コードから「自動車リサイクルタウン」へGO! 動画を見たり、クイズを楽しんだりしながら、より詳しく学ぶことができますよ。

工場

動画で工場見学ができるよ。
博士も登場するからお楽しみに!

美術館

クルマのリサイクルコンクール
の受賞作品が展示されているよ。

チャレンジの館

博士が出題するクイズに
挑戦! キミは何問解けるかな?

自動車リサイクルタウンはコチラ
<https://www.jarc.or.jp/recycletown/>

進め! クルマのリサイクル

2026年3月発行
 発行所: 公益財団法人自動車リサイクル促進センター

お問い合わせ

自動車リサイクル全般
 自動車リサイクルに関するお問い合わせはこちら

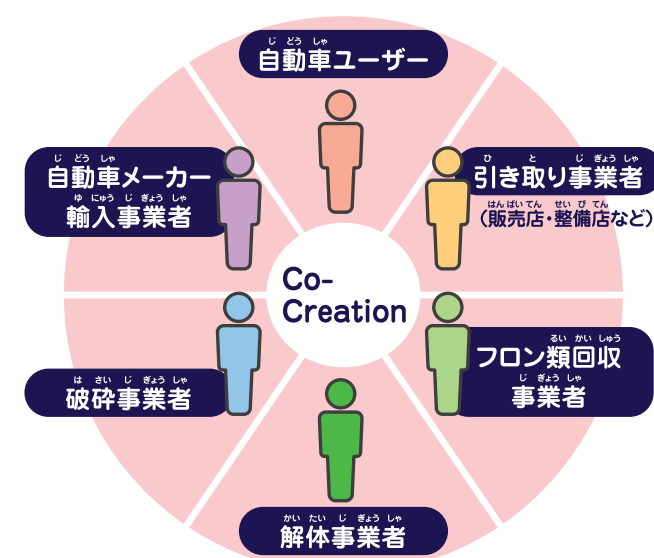
050-3786-7755 [受付時間] 9:00~18:00 ※土日祝日・年末年始等を除く

循環型社会をみんなの力で

自動車リサイクルは、自動車を製造する人、販売する人、部品や資源を再利用可能にする人、フロンガスやエアバッグなどを適切に処理する人など、様々な人々が役割を担うことで、資源を有効に利用し、循環型社会の実現を目指す社会システムです。

自動車ユーザーの役割

自動車ユーザーは、自動車を購入する時にリサイクル料金を支払ったり、使い終わった自動車を販売店などの引取業者に引き渡すことで、自動車リサイクルを支えています。さらに、自動車を購入する際にはリサイクルしやすい自動車を選んだり、できるだけ長く使用するように努めたり、修理時にはリサイクル部品を使用するなど、ゴミを減らし、資源の有効利用を促進する役割も担っています。



みんなが力を合わせる自動車リサイクルは、世界から「**ジャパンモデル**」として注目されています。

資源を大切に、地球環境を守る自動車リサイクル

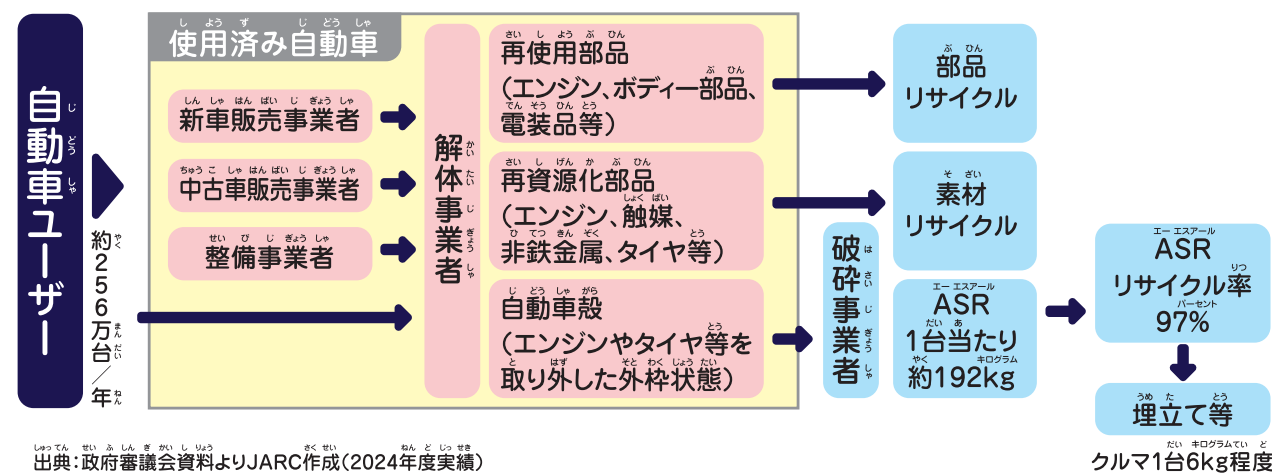
日本では、年間300万台もの自動車が使用済みとなっています。しかし、自動車に使用される鉄や銅などの天然資源は限られており、再利用が必要です。さらに、分別・回収後に残るプラスチックやゴムなどのクズ(シュレッダーダスト)の埋め立て場所も減少しています。また、カーエアコンに使用されるフロンガスを適切に処理しなければ、地球温暖化につながる可能性があります。

こうした様々な問題に対応するため、2005年に自動車リサイクルシステムの運用が開始され、自動車に関わる人々の努力や工夫により、使用済み自動車のほとんどがリサイクルされるようになりました。



▲自動車リサイクル制度の運用開始前は、使い終わった自動車の不法投棄などが見られました。

自動車リサイクルの流れ



クルマのリサイクルの流れ



- 1 自動車販売編
- 2 整備編
- 3 オークション編
- 4 解体工場編
- 5 破碎工場編
- 6 生産編

自動車のリサイクルは
多くの人が力を
合わせることで
成り立っているんだね。
それぞれの現場では
どんなことが行われるのか、
一緒に詳しく見てみよう!



 **お家で工場見学!**

すすめ! クルマの リサイクル

一台の自動車がつくられ、大切に乗り続けられ、やがて使用済みとなり、リサイクルされる
までには、さまざまな人が関わっています。そして、それぞれが役割を果たしながら、循環
型社会を実現するための取り組みが行われています。これから、自動車リサイクル博士と一
緒に自動車リサイクルの現場をたずね、その取り組みや努力、工夫について学びましょう。

もくじ

クルマのリサイクルの流れ

自動車リサイクルの概要

① 自動車販売編	2
② 整備編	4
③ オークション編	6
④ 解体工場編	8
⑤ 破砕工場編	10
⑥ 生産編	12
間違い探し	14
間違い探しの答え／動画で工場見学!	16
自動車リサイクルタウンへ行ってみよう!	

地域のクルマ生活を 力強くサポート!



クルマは人や荷物を運ぶだけでなく、緊急の時に人を助けたり、私たちの暮らしを支えてくれる大切な乗り物だよ。役目を終えた後も、そのままゴミになるわけではなく、そのほとんどがリサイクルされて、新しい資源として生まれ変わるんだ。

最初に訪れたのは、クルマの「販売店」。クルマを売ることはもちろん、地域の人々に寄りそって、安心してクルマに乗れるよういろいろなサポートもしている会社だよ。どんな仕事をしているのか、さっそく見てみよう!

Point 1 頼りになる「販売スタッフ」さん

販売店の仕事は、大きく分けて「販売」と「整備」の2つ。販売を担当するスタッフさんは、新しいクルマを売りたいお客様にぴったりのお客を紹介したり、試乗を案内したりするんだ。お店にお客様をお迎えして、購入の相談ののるのももちろん、点検や修理の時の窓口も担当しているんだよ。また、町の自動車屋さんに向けて、クルマや部品を届けたり、修理に必要なパーツを販売したりすることもある。つまり「クルマそのもの」から「部品」まで幅広く扱っていて、地域のクルマ生活を支える大切な役割を担っているんだね。



Point 2 任せて安心! 「自動車整備士」さん

販売店を支えるもう一つの「柱」は、整備を担当する「自動車整備士」さん。車検や定期点検でクルマをすみずみまでチェックし、安全に走れるように整えてくれるんだ。ブレーキやタイヤなどを確認するのはもちろん、ライトやエンジンの調子まで細かく点検するよ。整備は基本的に予約制で、計画的に行うけれど、急な故障や事故の時にも出番がある。原因をしっかりと調べて、必要な修理をしてくれるんだ。



今回訪ねた販売店

富山ダイハツ販売株式会社 砺波店
富山県砺波市豊町
<https://toyama-daihatsu.co.jp/>

富山ダイハツ販売は、富山県でダイハツ車を中心とするクルマの販売・整備を行っている会社だよ。県内に7つの店舗をかまえていて、新車や中古車の販売だけでなく、車検・点検・修理など幅広くサポートしているんだ。



Point 3 「リサイクル料金」とは?

クルマを買う時には「リサイクル料金」というお金を支払う決まりがあるよ。これは、クルマが役目を終えたあとに安全に処理して、資源をリサイクルするための費用。クルマに残っているフロンガスをきちんと回収したり、エアバッグを安全に処理したり、最後に残るシュレッダーダスト(リサイクルできないごみ)を適切に処分したりするために使われるんだよ。

金額は車種によってちがうけれど、買う時に最初の持ち主(オーナー)が支払うのが基本。その後にオーナーがかわると、そのたびに料金の引き継ぎも行われるんだ。たとえば下取りに出して中古車として再販売される場合は、販売店から前の持ち主にリサイクル料金を返し、新しいオーナーがあらためて負担する仕組みになっているんだよ。

【A券】 預託証明書 (リサイクル券)

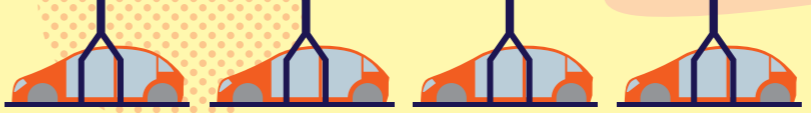
リサイクル券番号	車台番号	車名	ダイハツ
シュレッダーダスト料金	エアバッグ類料金	フロン類料金	情報管理料金
	¥2,400	*****	¥130
預託金額合計			¥8,130

※本券(A券)は車高欄記載の車台番号の車両にのみ有効です。
※料金欄で「*****」と表示されている項目はリサイクル料金が預託されていない整備です。使用済自動車引渡時に整備がある場合はリサイクル料金の追加預託が必要です。
※画像はサンプルです。

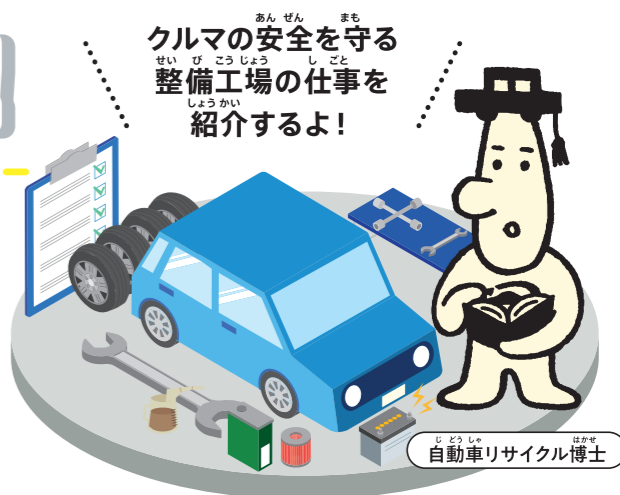
企業の取り組み 太陽光発電にチャレンジ

富山ダイハツ販売では、新しく建てたお店に太陽光パネルを設置して、自然の力で電気をつくり出しているよ。富山は冬に雪が多いので、太陽光発電には不向きと思われがちだけれど、あえて挑戦してみることで、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を減らす工夫を続けているんだって。この太陽光発電はもし災害が起きたときにも役立つよ。停電したときには、地域の人たちがスマホの充電などができるようにする計画もあるそうだよ。





点検や修理で 安全・長持ちへ!



クルマの安全を守る
整備工場の仕事を
紹介するよ!

今回訪れたのは「整備工場」。ここでは、クルマを長く大切に使うために欠かせない点検やメンテナンスのほか、故障したパーツを修理して再び使えるようにした「リサイクル部品(リビルト部品)」の活用など、環境にやさしい工夫がたくさん行われているんだ。



今回訪ねた整備工場
株式会社石井自動車(カーメッセiSHii)
香川県木田郡三木町 <https://www.ishii.co.jp>

香川県にある石井自動車はなんと創業100年以上という長い歴史を持つ会社で、地域の人々の快適で安全な生活を支え続けているよ。クルマの整備はもちろん、新車・中古車から自動車保険まで、さまざまな商品・サービスを提供しているんだ。

Point 2
使える部品は
もう一度活用

壊れた部品を丸ごと新しいものに取替えると、大切な資源をたくさん使ってしまうよね。そこで整備工場では、新しい部品だけでなく、「リサイクル部品」という、まだ使える部分をきれいに整えて再び利用できるようにした部品も活用しているんだ。中でも、いったん分解して問題のあるところを交換し、性能を新品のように回復させたものは「リビルト部品」と呼ばれるよ。どの部品も、品質がしっかり確かめられているから、安全面でも問題なし。こうした部品は新品より値段が安いから、修理費用を抑えることにもつながるんだよ。



まるで新品のような「リビルト部品」

修理や交換の内容はお客さんと相談して決めているんだ



企業の取り組み

地域と地球に貢献

石井自動車では、事務所や工場を使う照明をふつうの電球や蛍光灯からLED照明に替えることで、エネルギーを節約する工夫をしているよ。また、社員全員で月に一度、地域の清掃活動も行っているんだ。こうした地道な努力を積み重ねて、CO₂を減らしたり、きれいな町を守ったりしているんだ。地域に貢献して、地球環境を守るために、いろんな努力をしているんだね。

Point 3
使い終わった部品は
分別

交換されて役目を終えた部品も大切な資源として扱われているよ。使い終わったオイルやバッテリー、タイヤ、金属、プラスチックなどは、そのまま捨てずに種類ごとに分けて専門のリサイクル業者に引き渡しているんだ。きちんと分別することで、もう一度材料として再利用できるものも多いんだよ。

さらに、工場全体で電気や燃料のムダを減らす取り組みも進められているよ。照明をLEDに替えたり、代車の台数を管理したりして、限りあるエネルギーを大切にしているよ。こうした工夫の積み重ねが、CO₂の削減や地球環境の保全につながっているんだ。



車体を高く持ち上げて、古いオイルを排出するよ



クルマに不具合がないか内側までしっかりチェック! 見えないところも大事だよ

整備工場での点検は事故・故障を予防するための「健康診断」なんだ!

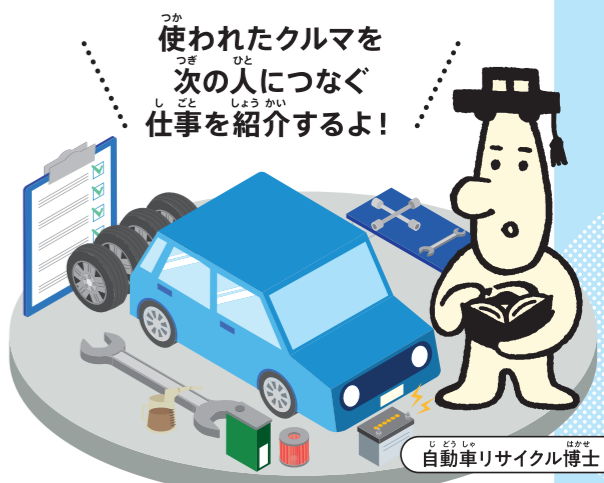


クルマを長く、安全に使い続けるためには、定期的な点検と整備、そして早めの修理が欠かせないよ。エンジンオイルやバッテリー、タイヤ、ライトなどは、見た目では分からなくても少しずつ傷んでいくんだ。整備工場では、オイル交換のついでに車体の下まわりや電気系統もチェックするなど、問題のあるところを早めに見つけて直しているよ。

小さな不具合のうち修理すれば、大きな故障や事故を防げるだけでなく、燃費の悪化も防ぐことができるんだ。こうした「予防整備」が、クルマの寿命を延ばすカギなんだね。点検は人であれば健康診断。半年に一度はプロの目で見てもらうことで、クルマも元気に走り続けられるんだよ。

Point 1
トラブルを防ぐ点検&整備・修理

中古車を 次の買い手へ!



今回訪れたのは「オークション会場」。ここでは、まだ乗ることができるクルマの状態を確認し、次に乗る人へ引き継ぐための取引が行われているよ。オークションは、複数の買い手が気に入ったクルマの値段を提示して、一番高い金額をつけた人が買える仕組みなんだ。

- 博士チェック!
- ### 中古車オークションの流れ
- 出品者が中古車と書類を提出する
 - 出品されるクルマを職員が 検査・撮影する
 - 検査情報と撮影した画像を コンピューターに登録する
 - インターネットに情報を公開し、クルマを会場に展示する
 - オークション開始! 売買が成立
 - 代金精算や書類のやり取りを行う



JU(日本中古自動車販売商工組合)が主催する中古車オークションを毎月2回開催しているよ。クルマを欲しい人が安心して取引できるように、前に乗っていた人から出品されたクルマの走行距離や修復歴など、状態を詳しく調べたりもしているんだ。



運び込まれたクルマに問題がないか、隅々まで検査するよ



Point 1 出品の前に厳しく検査

オークションに出品するクルマは、まず専門の検査員がクルマの中のシートの状態から外側のキズ、へこみ、ライト、スイッチの動き、走った距離、これまでの修理の記録まで詳しく点検し、クルマの状態を写真とともにデータ化してコンピューターへ登録するよ。このようにして、なんと100項目以上の情報を整えて、クルマの状態がひと目で分かるようにしているよ。これは会場に来る人だけでなく、インターネットから参加する全国の買い手が公平に比較・判断できるようにするため。状態がはっきり分かれば適正な価格がつき、購入後のトラブル防止にもつながるんだ。

Point 2 いよいよオークション



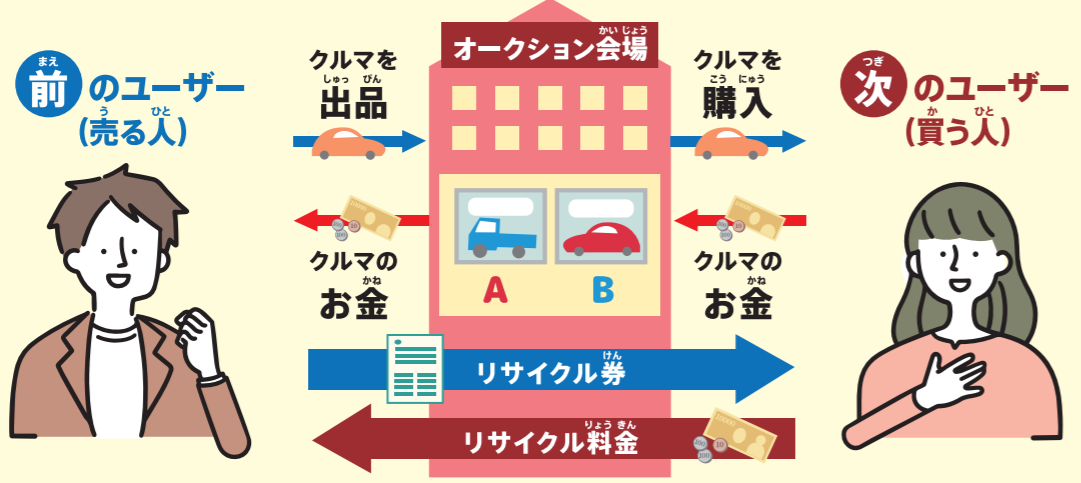
Point 2 いよいよオークション

検査を終えたクルマは、いよいよオークションに出品されるよ。会場にはたくさんさんのモニターが並び、全国の販売店の人たちがパソコンで画面を見ながら参加しているんだ。

出品されたクルマの写真や検査データを見て「この車がほしい」と思った人が希望の金額を入力していくよ。短い時間に何人も買い手が次々に値段をつけていくから、とてもスピーディー。たった20秒ほどで新しい持ち主が決まることもあるんだ。

Point 3 リサイクル料金もボタンタッチ!

クルマを売ったときのリサイクル料金の流れ



クルマを売り買する時は「リサイクル料金」というお金もいっしょに引き継がれるんだ。これは、クルマが役目を終えた後に安全にリサイクルするための費用で、クルマを買った人が前もって払っておく仕組みになっているよ。そしてオークションで新しい持ち主が決まると、その料金は前の持ち主に返されて、

また次に乗る人が支払うんだ。つまり、クルマといっしょに「リサイクルの準備金」もバトンのように受け渡されていくんだね。

こうして、どんなクルマでも最後まできちんとリサイクルできるように仕組みが作られている。これが、日本の自動車リサイクル制度のすごいところなんだ。

企業の取り組み

雪国ならではの工夫

青森県の冬は雪が多く、道路には雪をとかすための除雪剤がまかされているよ。けれどこの除雪剤は、クルマの下の部分をサビさせてしまうこともあるんだ。そこでJU青森では、出品されるクルマのサビや傷の状態をいねいに検査して、次の持ち主が安心して使えるようにしているんだ。雪国ならではの気候に合わせて、クルマを大切に次へつなぐ工夫をしているんだね。



やく め お
役目を終えたクルマを
ぶ びん や そ ざ い に ぶん かい
部品や素材に分解する
こう せ い
工程を紹介するよ!



自動車リサイクル博士

使い終わっても まだまだ使える!

こん かい しょう かい
今回紹介するのは、役目を終えたクルマが最初にやってくる
ばい せ い
場所「解体工場」。ここでは、クルマをただ壊すのではなく、
あん ぜん
安全に作業を進めながら、まだ使える部品や資源を取り出し
てい る ん だ。さあ、さっそく工場の中を見に行こう!

Point 1 安全のための「事前処理」

つか
使い終わったクルマの中には、そのままでは危険なものが入っているよ。
だから解体工場では、まず「事前処理」と呼ばれる作業をして、安全に解体できる
じょう たい
状態にするんだ。

① 燃料の抜き取り

クルマを走らせるための
の燃料であるガソリンや
軽油がタンクに残っている
ことがあったら、もし
そのまま解体を始めたら、
ちよっとした火花でも
火事につながってしま
うよ。だから、まずはタン
クの下に穴をあけて燃料
を抜き取るんだ。抜き
取った燃料はフィルタ
で何度もこして、工場の
社用車の燃料として再利
用されているんだって。



ドリルで車体のタンクに穴を開けるよ

② エアバッグの処理

エアバッグは事故のとき
にふくらんで、乗っている
人を守ってくれる大切な
安全装置。でも、処理をし
ないまま解体を進めると、
突然開いて作業員さんが
けがをしてしまう危険が
あるんだ。そこで工場では、
シートをかぶせて周囲に
人がいないことを確認し、
笛で合図をしてから電気
を流すよ。「ドーン!」と大
きな音を立ててふくらみ、
展開させて処理するんだ。



展開させた後のエアバッグ

③ フロンガスの回収

クルマのエアコンには
「フロンガス」という冷や
すためのガスが入ってい
て、空気中に出てしま
うと、オゾン層を壊したり
地球を温める原因になっ
てしまう。だから解体工場
では、きちんとフロンガス
を回収して、別の工場に
送って害のない物質にす
るよ。この処理には、クル
マを使った人が支払った
「リサイクル料金」が使わ
れているんだ。



専用の機械でガスを回収するよ

Point 2 国内外で大人気!「リサイクル部品」



どう ぎ ぎ ず う む
動作や傷の有無を
しっかりチェック!



永田プロダクツでは、リサイク
ル部品をできるだけ国内で販売
することを大切にしているん
だ。でも、日本のクルマは海
外でも人気が高いから、特に少
ない車の部品は世界の国々にも
輸出されて、多くのクルマを走ら
せる力になっているんだよ。

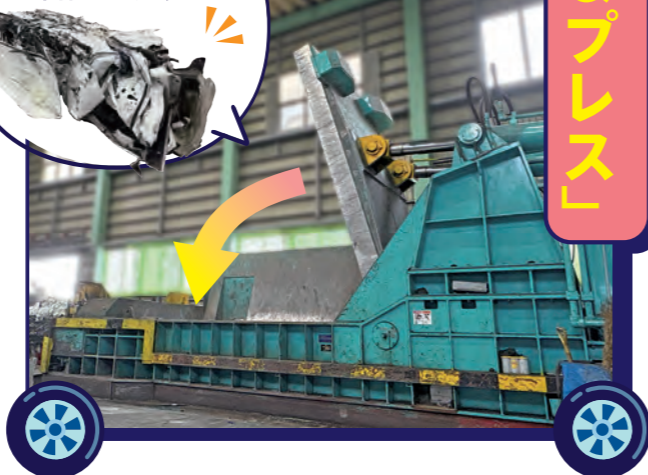
ひとつひとつ
キレイに手入れをして
出荷しているよ!



Point 3 残った部分を「解体&プレス」

使える部品を取り外したあとに
残るのは、クルマの骨組みなどの
部分だ。まず「ニブラ」と呼ばれる
大きなアームを持った重機を使っ
てバラバラにしていくよ。ニブラ
は車の外側をつかんで切りはな
したり、支えている内側の部品を
取り外したりできる、まさに自動
車解体のための「巨大なハサミ」。
そして主に鉄でできている部品
は「プレス機」に入れて、ギュッと
押しつぶされる。すると、大きなク
ルマが一瞬で箱のような形に小さ
くなるんだ。このかたまりはさら
に細かくリサイクルされて、再び
新しい鉄に生まれ変わるよ。

プレス機でつぶされた
車体がコチラ!



企業の取り組み

地域にひらかれた工場

永田プロダクツでは、毎年およそ600人もの見学者
を受け入れているよ。見学に来るのは小学生の社会科
見学だけでなく、地域のおじいさんやおばあさん、学生
など幅広い人たち。こうした取り組みは、地域の人々に
リサイクルの大切さを知ってもらえるだけでなく、
働いている社員にとっても大きな励みになっているよ。
自分の仕事を見てもらえることで「誇り」を持てるよう
になり、ますますやりがいを感じるんだって。

今回訪ねた解体工場

株式会社 永田プロダクツ
山形県酒田市高砂官林続
<https://www.nagata-p.co.jp/>

山形県酒田市に本社をかまえる「永田プロダクツ」は、使用済みのクルマを安全に、そして環境に配慮して解体している会社だよ。「Save the Earth」(地球を守ろう)を合言葉に、地球にやさしい社会づくりを目指しているんだ。



バラバラにして また資源に!

今回訪れたのは「破砕工場」。ここでは、解体工場で部品やタイヤ、ガラスなどを外したクルマが運ばれてくるんだ。実はクルマだけでなく、捨てられた自転車や飲料缶なども、ここでリサイクルされるんだよ!



今回訪れた破砕工場
株式会社マテック 石狩新港事業所
北海道石狩市新港東
https://www.matec-inc.co.jp/

北海道帯広市に本社を置く「マテック」は、鉄やアルミなど金属のリサイクルを幅広く手がける会社だよ。2020年に開設された石狩新港事業所では、自動車や家電の破砕や資源の選別を行っているんだ。合言葉は「I ♡ RECYCLE」だよ。



Point 1 クルマが粉々に! 「シュレッダー」

解体工場から運ばれてきた解体済みのクルマは、まだ大きなかたまりのまま。そこでまず大型のクレーンで「プレシュレッダー」と呼ばれる機械に投入し、粗くくだいていくんだ。こうすることで次の工程の負担を減らすことができるんだよ。次に登場するのが、この工場の主役「シュレッダー」。重さ30トンもあるローターが、1秒間に約10回転。そこに取り付けられたハンマーが勢いよく回りながら、クルマを何度も叩きつけるようにして粉々にしていくんだ。その威力はすさまじく、大きな鉄やプラスチックが拳くらいの大きさにまで小さくなるよ。



▲プレシュレッダーで粗く砕かれたクルマの骨組み

Point 3 種類ごとに分けて「再利用」

風や磁石で分けられた後の残りには、風で飛ばなかった重いプラスチックや、アルミや銅といった大切な金属も混ぜていくよ。ここで活躍するのが「非鉄選別機」。電気を通しやすいく金属とそうでないものの違いを利用して、アルミや銅などの金属と、重いプラスチックを分けていくんだ。飛び方の距離が変わる性質を生かすことで、見事に分別できるんだよ。

こうして取り出された鉄はとも純度が高く、銅やアルミも資源として再利用される。プラスチックも大部分がリサイクルされ、最後に埋め立てられるのはごくわずか。クルマ一台のうち、実に99%以上がリサイクルされているんだ。

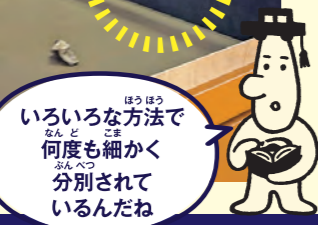


▲最終的に取り出された鉄

Point 2 金属を風や磁石で「分別・回収」

シュレッダーで粉々になったクルマのかけらは、金属だけでなく、プラスチックなども混ざった状態なんだ。そこで、いくつもの選別機を通して種類ごとに分けていくよ。まずは「風力選別機」。風をあてると軽いものだけが吹き上げられるので、シートのスポンジや内装のクッションなどの軽い部品(ASR II自動車シュレッダーダスト)が取り除かれるんだ。

次は「磁力選別機」。強い磁石を回転させて鉄だけを引きつけ、別のラインに運んでいくんだ。鉄は最後に人の目でもチェックされ、異物を取り除いて品質を高めるんだよ。



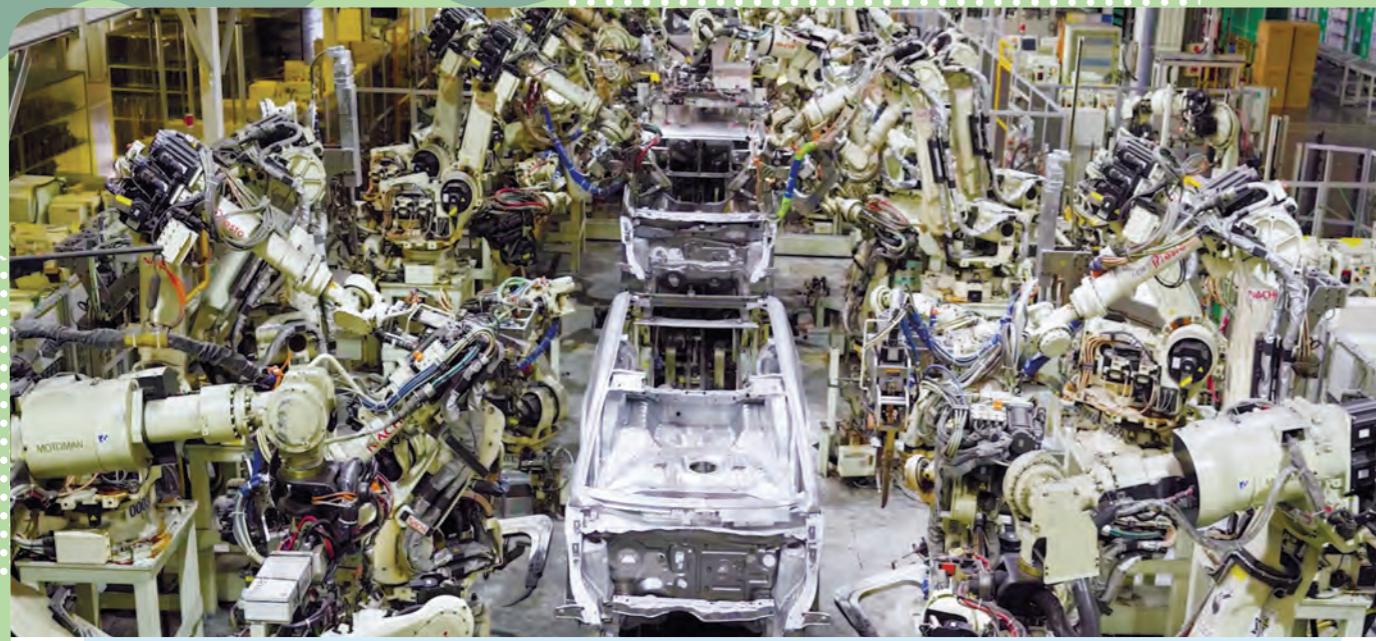
企業の取り組み

アップサイクルに挑戦

マテックでは、クルマから資源を取り出すだけでなく、「アップサイクル」にも挑戦しているんだ。アップサイクルとは、リサイクルした素材に新しいアイデアやデザインを加えて、より価値の高い製品に生まれ変わらせること。例えば、座席のシートに使われていた革を名刺入れや小物入れに変えたり、窓ガラスをガラスに作りかえたりしているんだよ。廃棄物として捨てられていたものが、オシャレな製品に変わるなんてすごいね。



▲マテック社員の方も愛用の名刺入れ



今回訪ねた生産工場
ダイハツ工業 京都(大山崎)工場
京都府乙訓郡大山崎町下植野

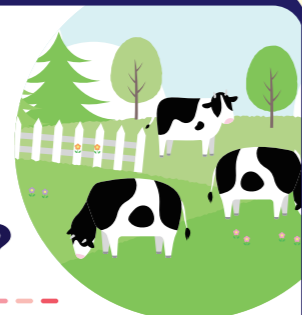
ダイハツの乗用車を生産する工場で、トヨタ車の製造も行っているよ。1973年の創業以来、近年は「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」という考え方を取り入れながら、資源やエネルギーをムダにしないクルマづくりを進めているんだ。



▲ 広大な工場の屋根に設置されたソーラーパネル

企業の取り組み

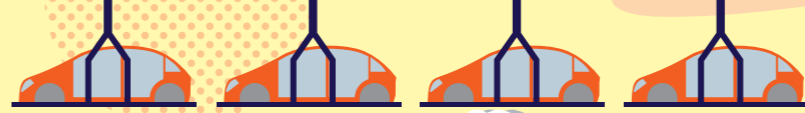
牛のフンから
エネルギー!?



滋賀県にあるダイハツの工場では、近くの牧場から集めた牛のフンを使って「バイオガス」というエネルギーをつくる研究をしているよ。牛のフンを発酵させると出てくる「メタンガス」は火をつけると燃えるので、工場の機械を動かすエネルギーとして使えるんだ。ふつうはそのまま空気に出てしまうメタンを燃料として生かせるから、CO₂を減らすことにつながるよ。

Point 3 工場自体も地球にやさしい

この工場では、できるだけエネルギーを節約できるよ。機械や作業の順番を見直したり、照明を省エネにするか、明るみに切り替えたりしているんだ。
 また、工場の屋根にはたくさんの太陽光パネルが並んでいて、工場を使う電気の一部をつくらせているよ。太陽の力で電気をつくれれば、CO₂を減らすことにもつながるんだ。
 こうした取り組みを積み重ねることで、クルマをつくる工場そのものも、地球にやさしい場所になるように努力しているんだ。



つくる時から

リサイクルしやすく!

今回訪れたのは「生産工場」。クルマが最初につくられるこの場所では、鉄やアルミ、プラスチックなどの材料をできるだけムダにしないことはもちろん、パーツを外しやすくするなど、役目を終えた後にリサイクルしやすくするための工夫もたくさん取り入れられているんだ。

資源をムダにしないクルマづくりの工夫を一緒に見てみよう!



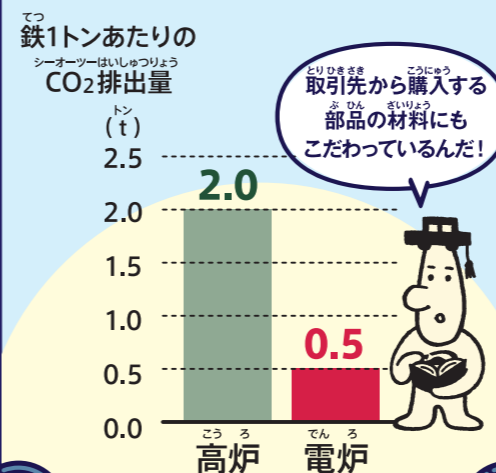
自動車リサイクル博士

Point 2 地球にやさしい鉄を選ぶ

クルマにはたくさんの鉄が使われているよ。そこでダイハツでは、できるだけ地球にやさしい「電炉鉄」という特別な鉄の利用を進めているんだ。ふつうの鉄をつくる時には、原料である鉄鉱石を溶かすために、石炭を燃やして高い温度にする必要がある。

でも電炉鉄はいらなくなった鉄を電気力で溶かしてつくるので、CO₂の排出がとても少なく済むんだよ。なんと、同じ鉄でもCO₂の排出量が約4分の1に減らせるんだ! こうした材料選びの工夫によって、環境への負担を小さくしているんだ。

鉄製造プロセスによるCO₂排出量の違い



Point 1 リサイクルしやすい部品づくり

この工場では、使い終わった時に部品を分けて回収しやすくするためのさまざまな工夫をしながら、クルマを生産しているよ。

この工場では、使い終わった時に同じ種類のプラスチックを集めやすくしているんだ。さらに、ネジの数をできるだけ減らすなど、部品を取り外しやすい構造にする工夫も行っているよ。

たとえば、バンパー・クルマの前や後ろに付いているカバーや、ドアの内側のパーツなどには、「この部品はポリプロピレンという素材です」といった材質の表示を付けることで、解体する

クルマを分解する時の作業がスムーズになり、回収した材料をリサイクルへ生かすやすくなるんだ。



材質表示はリサイクルする時に役立つ目印なんだ

自動車リサイクル博士

クルマのリサイクルでわたしたちの未来は

クルマのリサイクルって本当に必要なの？
クルマがリサイクルされている未来とされていない未来、

クルマのリサイクルがされている未来



答えは
次のページ!

からの挑戦状

どう変わるかな？

どんな違いがあるか、探してみよう！

違いは
全部で5つ
あるよ

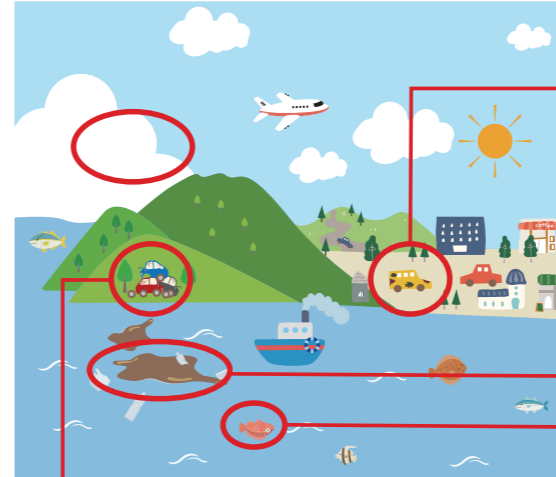


クルマのリサイクルがされていない未来



間違い探しの答え

間違いは全部見つけれられたかな？
クルマのリサイクルがされていないとどうなるか
一緒に見てみよう！



ボロボロのクルマに乗っているね。
整備をしていないと、クルマを
長く安全に使うことができなく
なってしまうんだ。



捨てられたクルマの油かな？
海が汚れて、クジラが
いなくなっているね。



魚が死んでしまっているね。
海が汚れることで、
海の生き物が減っているんだね。



捨てられたクルマの山だ！
いらなくなったクルマを勝手に捨てているんだね。
リサイクルせずにクルマをそのまま捨ててしまうと、
土や水が汚れてしまうだけでなく、
まだ使える資源も無駄になってしまうんだ。



クルマのリサイクルをすることは、
人にも地球にもやさしいんだね。



動画で工場見学！



6つの工程で紹介した実際の作業のようすを
映像で見よう！
左の二次元コードからチェックしてね



vol.1 解体工場編



vol.6 生産編



vol.2 破碎工場編



vol.3 自動車販売編



vol.4 整備編



vol.5 オークション編